

6 本時の学習（12時間予定 本時はその12）

（1）ねらい

お弁当作りを振り返り、家庭での実践意欲を高めることができる。

（2）人権教育の視点

お弁当作りを振り返り、友達のよい面やがんばりを見つけることができる。

（3）準備 学習ノート 掲示用資料（模造紙・画用紙） プリント

（4）展開（きめ細かな指導）

学習内容	時間	支援及び指導上の留意点	評価規準（方法）
1 前時の学習を振り返る。	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・前時はお弁当作りの調理実習を行ったので、そのことを思い出し、反省や感想をプリントに記入させる。班員のがんばりや工夫している点に着目させ記入をするようにする。 ・達成感や満足感など一人一人の気持ちの変化が家で重要視する。 ・一人でも調理できるよう十分に技能を習得したか、反省させる。 ・身支度や後片づけなどきちんとできたか振り返らせる。 ・能率よく作業できたか、各自が実習を振り返るようにする。 	<p>（十分満足な状況 おおむね満足な状況）</p> <p>学習したことを生かし、家庭での実践計画をたてることができる。</p> <p>（学習ノート） 家庭での実践計画をたてること ができる。</p> <p>（学習ノート）</p>
2 実習の反省点を発表し合う。	20分	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での実践化を考え、どのようにするとうまく調理できるのか考えさせる。 ・失敗したところは次に生かすためにどうしたらいいの か考え発表させる。 ・実際の調理実習では、班での行動が中心となるが、意見交換をすることによって他の班の様子や良い点にも気付くことができるように意図的に指名する。 	
3 献立発表会の資料を参考に家庭で作れる献立を考える。	15分	<ul style="list-style-type: none"> ・家での実践化を図るため実習したことや、献立として考えたものなど組み合わせ家庭でも調和のよい食事の献立を考え調理できるよう考える。 ・1食分の献立を考えるとときには、栄養のバランスを考え、食品を組み合わせることをおさえておく。 ・家庭で実践するための計画を立て、学習ノートに記入する。 	
4 家庭での実践化をよびかける。	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から食事の手伝いや簡単な調理など進んで行うようよびかける。 ・家庭での実践の計画を休日などを活用し、実行することを課題とする。 	